

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No411
(新著の紹介)

子どもにすべてを委ねる授業など行われていない
ーオランダ教育の専門家がイエナプランを語るー
奥村好美先生(京都大学教育学研究科准教授)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。
*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

（ご紹介）



奥村好美
おくむら よしみ

京都大学大学院・教育学研究科・准教授

京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。博士（教育学）。兵庫教育大学講師・准教授を経て2022年4月より現職。

単著『＜教育の自由＞と学校評価——現代オランダの模索』（京都大学学術出版会, 2016年）『子どもが共に育つ 個に応じた教育の考え方と進め方——オランダに学ぶ個別化・個性化教育の課題と展望』（日本標準, 2026年），共編著『「逆向き設計」実践ガイドブックー『理解をもたらすカリキュラム設計』を読む・活かす・共有する』（日本標準, 2020年）など





奥村好美 (2026). 子どもが共に育つ 個に応じた教育の考え方と進め方ーオランダに学ぶ個性化・個別化教育の課題と展望ー 日本標準

第1章 日本における多様性の包摂への関心の高まり

- 1 個別化・個性化教育をめぐる近年の教育政策の展開
- 2 個別化・個性化教育と「個に応じた指導」
- 3 なぜ、オランダの教育に着目するのか

第2章 オランダのイエナプラン教育に見る「個別化・個性化教育」

第3章 オランダのダルトンプラン教育に見る「個に応じた教育」

第4章 よりよい個別化・個性化教育を目指して

- 1 個別化・個性化教育をめぐる論点
- 2 日本における個別化・個性化教育を考える

それではご覧ください

2026年4月

『子どもが共に育つ 個に応じた教育の考え方と進め方』

京都大学 奥村好美

自己紹介 奥村 好美

・京都大学大学院 教育学研究科

専門:教育方法学(教育評価論、カリキュラム論など)

研究テーマ:オランダにおけるオルタナティブ教育や学校評価に関する研究、カリキュラム改善・教育評価などに関する日本の学校現場との共同研究など



目次

はじめに

第1章 日本における多様性の包摂への関心の高まり

第2章 オランダのイエナプラン教育に見る「個別化・個性化教育」

第3章 オランダのダルトンプラン教育に見る「個に応じた教育」

第4章 よりよい個別化・個性化教育を目指して

第1章 日本における多様性の包摂への関心の高まり

- 1 個別化・個性化教育をめぐる近年の教育政策の展開
- 2 個別化・個性化教育と「個に応じた指導」
- 3 なぜ、オランダの教育に着目するのか

本書での「個別化・個性化」・「個に応じた教育」とは

- 個別化・個性化

- 個別化:主に量的個人差（学習にかかる時間の差など）を尊重する考え方
- 個性化:主に質的個人差（興味や関心など）を尊重する考え方

＊個性化は、子どもの全体性を視野に入れたり、子どもの自主性や自発性を尊重したりする傾向も強い

- 個に応じた教育

- 個別化・個性化を実現するための教育方策
- 教室レベルで取り組まれうる方策だけでなく、学校やカリキュラムのレベルでの方策も含む

オランダに着目する理由

- 公教育としての教育実践の模索ーオランダ教育の特徴
- カリキュラムを視野に入れた実践の検討ー自由進度学習を念頭に置いて
- オランダの教育の日本への紹介の検討

第2章 オランダのイエナプラン教育に見る 「個別化・個性化教育」

- 1 イエナプラン教育の誕生とオランダへの受容
- 2 近年のオランダのイエナプラン教育の特徴
- 3 オランダのイエナプランスクールの実践例（初等学校）

イエナプラン教育とは

- 1920年代にドイツのイエナ大学の教授ペーターゼン (Petersen, P. 1884-1952) が大学の附属学校で始めた教育。
- 1950年代 新教育連盟のオランダ支部で書記をしていた スース・フロイデントール (Freudenthal, S. 1908-1986) がイエナプラン教育と出会い、オランダへ紹介。

オランダにおけるイエナプラン教育の理念

- フロイデンタールによる「教育的ミニмум(pedagogische minima)」

①インクルーシブな思考のための養育 (opvoeding)、②学校の実際の人間化と民主化、③対話、④教育学的思考と行動の人間学化、⑤真正性(本物性、真実性)、⑥生と学びの共同体における共同体的、自律的な構成による自由、⑦批判的思考の養育、⑧創造性

- 20の「基本原則(basisprincipes)」(一部抜粋) *2025年採択版

- 「人」について(原則1~5)

1. 全ての人はユニークである。

- 「社会」について(原則6~9)

6. 人々は、他者のユニークな価値を尊重する社会に向けて取り組む。

- 「学校」について(原則10~20)

10. 学校は教育学的基本姿勢に基づいて取り組む。

11. 学校は、共に生きることを教える。

オランダのイエナプラン教育における 個別化教育とは

- 個別化教育 (Individualiseren) : 子どもたちを不当に扱わない、全ての人の可能性や制約を考慮した教育的組織
 - 批判対象 : 同一年齢学級での一斉授業
 - 学習の取り決めや評価は、子どもと教師との間で個を規準に行うことが求められる。
- *個人内評価の推奨。ただし、現在のオランダには中核目標（初等学校卒業時までに身につけておくべき知識・技能等を示した目標）の存在あり
- *「個に応じた教育 (differentiatie)」: 個に応じる教育的方策。イエナプランでは、ブロックアワーの設計やコース学習の構成が鍵。

オランダのイエナプラン教育における 個性化教育とは

- 個性化教育 (Personaliseren) : 人はユニークな存在であるという考え方に立脚した教育
 - 「すべての人はユニーク」「交換不可能な存在」
 - 個人が意味を発見するプロセスを大切にすることが望まれている
 - (知識があっても) 身体的、理性的、感情的に経験されなければ、それは統合されることはなく、そうなれば教育はコンピュータと同じように記憶を与えるだけになってしまうという

オランダのイエナプランスクール(初等学校)の 実践的特徴

(1) 3つの年齢からなる学級の推奨。

- 「みんな違う」ことが前提となり、教師は個に目を向けざるを得なくなる
- 子どもたちは、互いに助け、助けられることを学ぶ

(2) リビングルームとしての学校・教室

ブロックアワー、コース学習、
ワールドオリエンテーションなど

(3) リズミカルな教育活動

- 4つの基本活動(対話、遊び、仕事(学習)、催し)がリズミカルに組まれる
- リズミカルとは、緊張や弛緩が交互に繰り返されること

オランダのイエナプラン教育の考え方・事例から

- 個と集団の関係について
 - たんに指導を個に合わせることを超えて、一人ひとりユニークな存在である子どもが自分らしく意味を発見しながら豊かに学ぶこと、互いにそれを尊重して相互作用の中で学ぶこと、他者ひいては社会のために貢献することが大切にされている
- 長期的にすべての子どもたちに保障すべき目標と個別化・個性化教育の関係性について
 - 長期的な目標の達成をすべての子どもたちに実現できるように、状況や子どもに応じて短期的に目標や取り組みが調整される

第4章 よりよい個別化・個性化教育を目指して

- 1 個別化・個性化教育をめぐる論点
- 2 日本における個別化・個性化教育を考える

個別化・個性化教育をめぐる論点

- 「教師主語」対「子ども主語」なのか
 - 学校全体での長期的な学習習慣の形成
インストラクションのよりよい実施
- 何を個に応じるべきか
 - 長期的な目標を子どもたちが達成できるように、個に応じる
＊長期的な目標を考えることで、共通して保障すべき学力の内実を豊かに考えやすくなる側面も
- 個別化・個性化と共に学ぶこと
 - 共に学ぶ包摂性の高い場づくり

個別化・個性化教育で育てやすい学力・学習の質と その際の指導・学習例

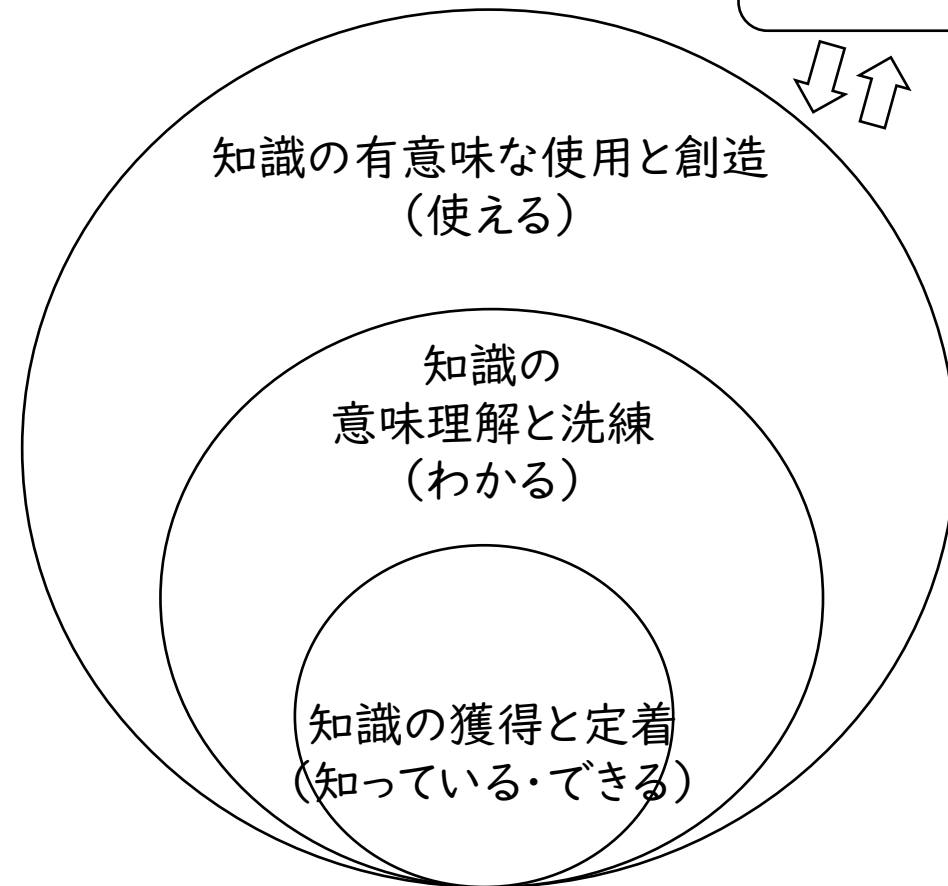
教師主導	学習者主導
パフォーマンス課題を軸とした長期的・探究的な教科の授業など	子どもが課題を設定する探究的な学習など
個を活かした練り上げ型授業など	自立学習など
(授業内外での)個別指導・個別対応など	自由進度学習など

個性化

個別化

知性的な態度や思考の習慣など
学びの先に社会・世界へ向かう態度

メタ認知
システム



学習習慣や興味・関心・意欲など学びの基盤となる態度